

江南町の石仏

sekibutsu



千代字東原の阿弥陀如来

阿弥陀如来は浄土教の本尊で、この仏を信じて念仏を唱えれば極楽往生できるとされています。半身浮彫の座像で、阿弥陀定印の印相を結んでいます。

造立は元禄二(1689)年。身高58.0cm。



千代字東原の大日如来

大日如来は真言宗の本尊で、宇宙を仏格化した仏。この大日如来は、墓地入り口にあって、4基群在する石仏の一つ。主尊は文字で表現されています。

造立は寛政四(1792)年。身高42.0cm。



押切字宮本の弥勒菩薩

弥勒菩薩は、釈迦入滅後五十六億七千万年後に現れて弥勒浄土をつくるとされ、信仰を集めました。この弥勒菩薩は、水路に面した塚の上に、双体道祖神と併立しています。

造立は、文化十二(1815)年。身高84.0cm。



樋春七社神社の普寛

普寛は、江戸時代中・後期の秩父郡出身の御岳講行者。関東地方に御岳信仰を広め、御岳講を結成しました。この普寛像は、境内の御塚塚上に11基群在する石仏の一つ。

造立は、安政三(1856)年。身高78.5cm。



樋春七社神社の不動明王

不動明王は五大明王の主尊で、治病・安産・災害除去などの祈願をかなえるとして信仰されています。この不動明王は、境内の御塚塚上に11基群在する石仏の一つ。半身浮彫の座像。

造立は、喜永七(1854)年。身高66.0cm。



樋春の穴薬師

この薬師如来は、字ヶ島に所在する薬師堂内に位置します。穴のあいた石を供えてお願いすると、目・口などの身体の穴の病を治してくれると伝えられています。半身浮彫の立像。

造立は、寛政九(1797)年。身高54.0cm。



成沢赤城神社の毘沙門天

毘沙門天は、多聞天とも呼ばれ、江戸時代になって七福神の一員に加えられています。この毘沙門天は、境内脇に群在する石仏の一つで、主尊は文字で表現されています。

造立は、文久二(1862)年。身高71.5cm。



成沢赤城神社の多聞天

多聞天は、須弥山の中腹に住み、帝釈天に仕える四天王の一人で、北方を守護する護法神。この多聞天は、境内脇に群在する石仏の一つで、主尊は文字で表現されています。

造立は、天保二(1831)年。身高102.0cm。



樋春真光寺の己巳供養塔

己巳の日の夜に、講中または個人で遅くまで起きていて精進供養する行事を己待と言ひ、この供養に造立されたのが己待塔です。この己待供養塔は門前左側に群在する石仏の一つ。

造立は、文化六(1809)年。身高63.0cm。

弁財天

古代インドの河神とされていましたが、仏教に取り入れられ、奈良時代になって密教と共に日本に渡来しました。もともとは、農業神的性格を持っていましたが、音楽や弁才の神に転じ、鎌倉時代になると福神となり、江戸時代に七福神の一員として、一般に広く信仰されるようになりました。弁才天の造立目的は、池・沼などの水辺に祭られる水神として、また巳待供養の主尊としたものもみられます。



25 成沢赤城神社の弁財天
矢・鍵・斧・槍・輪宝・弓・剣を持つ
半身浮彫の立像。
延享二（1745）年造立。



26 押切旧円光寺の波乗り弁財天
頭上に鳥屋と蛇身を配し、波の上に乗る
半身浮彫の弁財天座像。左手に宝珠・輪宝・
弓・鈎、右手に手剣・三叉戟・箭・宝棒を持つ。
（江南町指定文化財）
享保十二（1727）年造立。

双体道祖神

双体道祖神

道祖神は、村の入口や辻・峠に祀られている場合が多く、旅の安全を守る神・疫病神などの侵入を防ぐ神・良縁を得させ子供を授ける神・病気を治す神として、最も身近で親しみやすい神として、江戸時代以降信仰を集めました。双体道祖神は、男神と女神が並んでいるもので、長野県から群馬県、相模地方に多く分布しています。江南町内では1基のみ確認されていますが、寄り添って手を握り合っている姿は、群馬から長野県にかけて見られる像と共通のものです。



27 押切字宮本の双体道祖神
二神組肩双握手の型をとる半身浮彫の立像。
（江南町指定文化財）
寛政十（1798）年造立。

馬頭観音

梵名は、「馬の頭を持つ者」の意であるハヤグリーバア。観音は、優しい顔の慈悲相が普通ですが、この観音に限っては恐い憤怒相をしています。これは、慈悲で救い難い衆生のためには、仏が怒りの姿をもって救い上げようとするもので、弥陀の変化した一つの形が馬頭観音といわれています。馬頭観音は、平安時代より六観音・七観音の一つとして仏教的な目的で建立されてきましたが、江戸時代に入り、農村部などで馬の供養塔や墓標的な性格をもつものが増え、それとともに文字塔が多くなりました。建立の場所は死馬捨場・峠や山道などの交通の難所・村はずれの追分・屋敷地内などが多いようです。



28 押切字項長の馬頭観音
三基都在する石仏の一つ。頭上に馬頭を配する半身浮彫の座像。
天明五（1785）年造立。



29 成沢字大坂の馬頭観音
奥道脇の坂道の途中に位置し、緑泥片岩の板石を用い、主尊は文字で表現。享和（1802）年、御正村女講中により造立。



30 樋春字袋田の馬頭観音
土手の観音様として親しまれ、毎年三月に団子をまく。台座左側の銘文は判読不明のため、造立年不明。

江南町の石仏マップ



江南町の石仏

庚申 青面金剛 猿

庚申塔と青面金剛と猿

60日に一度巡ってくる庚申の日に、その夜を眠らずに過ごして健康長寿を願う信仰があります。これは、古代中国の道教の影響を受けたもので、人の体の中には三尸という虫がいて庚申の夜に天に昇り、天帝にその人の罪過を告げて人の寿命を縮めるといいます。したがって、三尸を体の外に出さないために、庚申の夜は眠らずに朝を迎えるといふものです。この庚申信仰は、平安時代に日本に伝わり、室町時代になると、伝染病の予防・治療の信仰対象であった青面金剛が、三尸を駆除する目的で結びつきました。江戸時代になると、「見ざる・聞かざる・言わざる」の三猿を三尸になぞらえ、罪過を天帝に報告させぬ意から、庚申信仰と結びつき、各地で3者の結びついた石仏が造立されるようになりました。



31 押切旧円光寺の庚申塔
邪鬼を踏みつけ青面金剛が立つ。下部には三猿。



32 野原 八幡神社の庚申塔
台座に烏帽子を被った猿が「青面金剛」と刻銘された巻物を持つ。
寛政十二（1800）年造立。



33 塩字西原の庚申塔
嵐山町境の奥道脇林中の塚上に建つ青面金剛の立像。頭上には、月と太陽、両脇には鳥、下部には三猿を配す。天和二（1682）年造立。

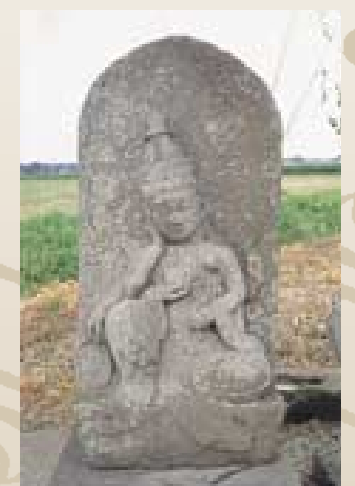
二十二夜塔 如意輪

二十二夜塔と如意輪観音

二十二夜塔は、二十二日の夜に人々が集まり、勤業や飲食を共にし月の出を待つ月待ちの行事を行った女人講中で、供養のために造立した塔です。「二十二夜」の文字を刻んだものと、如意輪観音の像を刻んだものがあります。全国的には、二十三夜塔が最も一般的に認められますが、二十二夜塔は、埼玉県の北西部から群馬県の中西部域に濃密に分布しています。江南町内での月待塔は、ほとんどが二十二夜塔となっています。如意輪観音は、富を施し六道に迷う人々を救い、願いを成就させる観音様として、江戸時代中期以降民間信仰に広く取り入れられ、二十二夜さまの本尊として女性の盛んな信仰を受けました。また、女子の墓標仏としても、各地に数多く造立されています。



34 小江川保泉寺の二十二夜待塔
参道脇に庚申塔とともに並立する半身浮彫の如意輪観音座像。
天明四（1784）年造立。



35 押切字曲屋の二十二夜待塔
地蔵とともに並立する半身浮彫の如意輪観音座像。
明和元（1764）年造立。



36 千代普門寺の二十二夜待塔
境内に群在する石仏の一つ。半身浮彫の座像。背面に「二十二夜」と刻まれている。造立年不明。

江南町の石仏



樋春真光寺の大黒天

この大黒天は、真光寺の門前脇に5基群在する石仏の一つ。

米俵は、江戸時代に五穀豊穡を願う信仰が付加され結びついた日本独自のもの。

造立は、天保十五 1844 年。身長66.0cm。



塩字塩西の大黒天

大黒天は、江戸時代に七福神に加えられたもので、大国主命の大国と大黒の名前が似ていたために結びついたとされています。この大黒天は、県道脇に8基群在する石仏の一つ。

造立は文政 1828 年。身長98.0cm。



押切字曲屋の釈迦如来

釈迦は、古代インド釈迦族の王子として生まれ、三十五歳の時に悟りを開きました。仏教の祖。石仏としての釈迦像は珍しく、この釈迦像は説法印立像の形をとっています。

造立は元禄四 1691 年。身長97.0cm。



千代普門寺の聖徳太子塔

聖徳太子は、十七条憲法の制定や多くの寺院を建立した伝えから、芸能・技芸・木工職人らの信仰を集めました。この聖徳太子塔は、穴薬師に隣接して群在する石仏の一つ。

造立は、安永三 1774 年。身長64.0cm。



樋春旧観音寺の地蔵 (町指定文化財)

この地蔵は、旧観音寺の敷地内に位置しています。台座には、製作者である「松井清兵衛清昌」という熊谷市内に居住した石工の名が刻まれています。全姿丸彫の立像。

造立は、享保七 1722 年。身長98.0cm。



塩字明賀の地蔵

この地蔵は、大榎の下にあって、「疣^{いぼ}地蔵」と呼ばれています。疣が治るように泥の団子を供えて祈願し、治ると米の団子を供えてお礼とします。半身浮彫の立像。

造立は、元禄二 (1689) 年。身長87.0cm。



小江川字通殿の地蔵

この地蔵は、水路脇にあって「夜泣き地蔵」と呼ばれ、子供の夜泣きに効くと伝えられています。半身浮彫の立像。造立は、小江川念仏講中により弘化二 (1845) 年に再建されています。身長83.0cm。



樋春旧観音寺の六地蔵

旧観音寺境内に位置するこの六地蔵は、七角面に地蔵を配し、一面に銘文を記しています。天蓋には、上部の宝塔部分が欠損している、入母屋造の屋根をのせています。造立は、嘉永三 1850 年。総高160.0cm。



押切字幢寺の六地蔵

地蔵は、六道を輪廻転生する衆生を救済するとされる事から、六つの分身を考え六地蔵として信仰を集めました。この六地蔵は、三体ずつ二段に半身浮彫されています。造立は、慶応四 (1868) 年。身長60cm。



須賀広釈迦寺の庚申塔

この庚申塔は、釈迦寺入口脇に、庚申塔とともに併立しています。青面金剛の両脇には鶏が配されています。この鶏は向き合っている例が多いのですが、本例は右側の鳥が振り返っています。造立は不明。身長98.0cm。



塩常安寺の馬頭観音

境内に5基群在する石仏の一つ。頭上に宝馬を戴き、左手に輪宝・数珠・斧を持ち、右手には剣・斧を持つ。半身浮彫の座像。造立は、安永三(1774)年に塩村舟川の馬持講中による。身長72.0cm。



21 小江川保泉寺の庚申塔

この庚申塔は、保泉寺の参道脇に、二十一夜待供養塔とともに併立しています。緑泥片岩の板石に主尊は文字で表現されています。造立は天保十三(1842)年。身長は223.0cmで、町内最大のものです。



22 野原字丸山の庚申塔

この庚申塔は、5基群在する石仏の一つ。主尊の文字は楷書体で彫られています。背面に月と太陽を、下部には正装して御幣を持つ猿が一匹半身浮彫で配されています。造立は、寶暦五(1755)年。身長102.0cm。



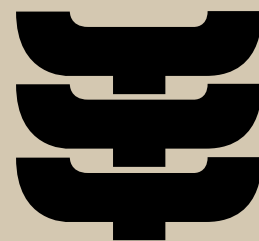
23 板井桜ヶ丘の庚申塔

この庚申塔は、県立循環器センター向かいの林中の塚上に建てられています。青面金剛の半身浮彫立像。両脇には鶏、下部には三猿、背後には月と太陽を配しています。造立は、享保七(1722)年。身長71cm。



24 成沢行人塚の庚申塔

この庚申塔は、旧神力寺参道の向かいの山中に位置しています。昔から子育ての神として信仰が篤く、一歳と三歳の誕生日には子供を連れてお参りする人もいます。造立は、享保十七(1732)年。身長95cm。



文化財をたいせつにしましょう。

平成11年12月

江南町教育委員会

〒360-0192 埼玉県大里郡江南町中央1丁目1番地
TEL.048-536-1521(代) FAX.048-536-4130